

広報 土づくり 3月



支えあい、繋がりあう在宅生活

鳥取県のクライアント、前田祐彰さんは、強度行動障害のある23歳の男性です。長らく施設に入所していましたが、1年前に琴浦町と施設の協力の下、在宅生活に移行しました。今回は、祐彰さんのお母様と鳥取の管理者 池田憲治さんに話を伺いました。

まへだ ひろあき
前田祐彰(23)
鳥取県の知的障害、
重度の自閉症スペクトラム障害



祐彰が生まれて

祐彰は初めての子だったので、主人も私も知識がなかったんですが、とにかく寝ない子でした。眠りも浅くて、ちよつとした物音ですぐ起きてしまいます。20時くらいに寝てくれたかなと思っても、主人が帰ってくる音で目を覚まし、そこから2時くらいまで起き続けます。ようやく眠ったと思うても5〜6時の繰り返して、主人も私も祐彰

が新生児の頃から寝不足状態が続いていました。

次男が年子で生まれましたが、妊娠中も祐彰はずっと歩き回っていて、妊婦検診でも階段の上り下りを延々に続けたり。その頃はまだよちよち歩きだったので良かったんですが、走れるくらいになるとずっと追いかけて状況が続きませんでした。妊娠中だし、土日はくたくただけで、祐彰は元気いっぱいだから公園に連れて行き、帰宅後も1時間半ほど寝たら元気になって飛び起

きて。四六時中、動き回っていましたね。



自閉症の診断

主人の出身は鳥取ですが、転勤族だったので祐彰は大阪で生まれて、2歳前に岡山に引っ越しました。その頃から鍵を開けることを覚えてしまつて「飛び出し」が始まつたんです。1.5mくらいある扉を、物をつたつて飛び越えて外に出て、そのまま行方が分からなくなる。少しおかしいなと思つて診断を受けたところ、自閉症だと分かりました。そこからはスケジュールを作つたり課題をしたりして祐彰と過ごしましたが色々難しく、成長するにつれて自閉症もひどくなつていきました。その後、鳥取市に引っ越すと、飛び出しも頻繁に起こるようになりましたが、探しに行つても予想が付かなくて見つけれないんです。何度も警察に捜索をお願いしたり、真冬のように寒い11月のある日には、千代川と言う大きな川で遊んでいるところを近所の方に保護されたこともありました。5歳くらいで鳥根に引っ越しましたが、その際、1泊だけ施設に預けたんです。そうしたらまた飛び出してしまつて、白兔海岸の海で遊んでいたところを保護されました。おぼれずには

済みましたが、ずっと追いかけてこの日々でしたね。



小学校進学と器物破損の始まり

祐彰は幼い頃、発達障害の子を対象にした保育園に母子で通っていました。5歳以降は保育園も満杯で、民間の日中預かりを使つたり、ヘルパーさんのサービスも初めて利用して、自宅外の施設で夕方まで見てもらうようになりました。小学校からは特別支援学校に通い始めましたが、その頃から物を壊すことが始まつたんです。プラスチックのおもちゃのブロックを、買つても買つてもはさみで切つてしまい、娘が生まれたので危ないからと捨てると、「ない、ない」とゴミをあさるようにもなりました。本当に大変でしたね。小学校4年の時に今度は広島に引っ越ししました。当時、次男の学校行事の際には祐彰をショーケースで施設に預けていたんです。でもある日、顔中あざだらけで帰ってきました。なんでも寝る時に寂しかったみたいで、他の利用者さんの布団に入つてしまい、その人の怒りを買ったらしいんですが、怖くありませんでしたね。本人が無意識でしたことでも、他の方の怒りのポイントに触れてしまうこともあるんだと勉強になりました。





自身の入院、 そして施設入所

広島にいた当時、借家の2階部分を子ども部屋に充てていたんですが、外壁のといを使つて1階に降りることを覚えてしまったんです。しかも裸のまま。ちょうど鳥取に定住することを考えていた頃だったので、鳥取に引越したんですが、家が建つまでの間も飛び出しを何度も繰り返して、私自身が夜も眠れず、朝も早いしで、精神的に病んでしまつて入院することになったんです。そこで、祐彰を施設(皆成学園)に入所させることになりました。彼が10歳の時でしたね。



不安を抱えて

皆成学園に入所してからは、私は週に1回祐彰に会いに行き、外出でお店に行ったり、家で数時間一緒に過ごす形になりました。祐彰は施設から学校に通つて、お正月やお盆には家に1泊する感じでしたが、高等部に入ると衝動性が酷くなり、外出も面会も禁止になりました。3年になった頃に、ようやく週に1回面会できるようになりましたが、18歳になると基本的には施設から出なくてはなりません。けれど、



施設から在宅へ

鳥取県内で受け入れてもらえる施設がどこにもなく、特例として2年延長してもらい、20歳まで皆成学園で過ごしました。でも県内ではその後の受け入れ先がどうしても見つからなかったため、群馬県にある国立の強度行動障害の施設である「のぞみの園」に入所したんです。



土屋と共に

ほぼ1年前から在宅生活に入りましたが、今は正直ほつとしています。祐彰にはたまに会いに行くくらいで、関わることはとても少なくなりましたが、ヘルパーさんにずっと付いてもらつて安心しています。特に食事面では、毎食メニューも違つてレパートリーも多いので嬉しいですね。日に3回、食事の写真や祐彰のスマホから一言添えて送つて頂いたり、散歩の写真も頂いたり、人の温かみを感じてありがたいですし、それを本人も分かっているんじゃないかなと安心していきます。



も強くなつてきました。2歳の時に言葉も消失していたのですが、もう喋れないのかなと思つていましたが、1〜2個ずつけご言葉が出てくるようになったり、文字盤で食べたいものなどを教えてくれたりもします。模倣も見られるので、まだ伸びしろはあるのかなと。衝動性が少し収まつて、



全国のご家族に 伝えたいこと

私たちの場合は鳥取県や琴浦町の援助があつて、こういう形で生活できるようになったので、今、一緒に生活して介護を頑張つておられる方には頭が上がりませんし、頑張りすぎずに頑張つて欲しいと思います。使えるサービスは利用して、息抜きをしながら、自分の生活も子どもたちも守っていく形を取つて頂けたらと思います。

鳥取の管理者・池田憲治さん

鳥取事業所で初の強度行動障害の方の支援。スタッフ皆が初心者の中、管理者の池田さんは関係各所と連携し、1年前からサポートをスタートしました。在宅で変わっていく前田祐彰さんの様子を中心に、試行錯誤を続ける現場の熱意をお伝えします。

施設から在宅へ

令和3年11月に、鳥取県と琴浦町から前田さんの支援の話を受託しました。その頃鳥取事業所にはすぐに対応できる職員がいなかった状況でしたが、「なんとかします」と。それで、1、2か月でこちらの受け入れ態勢を整えました。肝心の住居が近隣住民の反対などでなかなか決まらず、琴浦町が場所を変更して住環境を整え、令和4年3月末によくサポートがスタートしました。

初めての強度行動障害支援

前田さんは、異食と器物破壊、飛び出しがあるため、強度行動障害の中でも支援はかなり難しい部類に入ります。我々も強度行動障害の方の支援は初めてだったので、最初は戸惑いましたね。けれど、のぞみの園が支援の枠組みを作り、しっかりと引継ぎもして下さった



鳥取事業所
アテンダント 前田さん 池田さん

ので、それに全面的に則る形で始めました。支援は24時間2人体制で、内容としては、見守り、家事全般、入浴、ワーク、散歩、買い物です。

前田さんの様子

言語によるコミュニケーションは難しく、こちらが話したことを分かってくれた時は、OKだったらず手を挙げてくれます。在宅

になってからは、文字盤を使って簡単な発信もしてくれるようになりました。

居宅は、自室とワーク室、キッチンがある部屋の全部で3部屋ありますが、基本的に一人で自室にいて、音楽を聴いたり、DVDを見たりしています。トイレや要求があると、壁をコンコンと叩いて職員を呼んでくれます。トイレは自分で行けませんが、付き添いは必要なので。その他は、食事やワーク、入浴などスケジュールに沿って、職員が入室する形です。最近はいたりすることもあり、少しずつ職員のかかわりを増やしています。

在宅で変わったこと

在宅生活を始めてから、前田さんが良い方向に変わってきています。まずはのぞみの園で過ごしていたように支援を始めたので、前田さんが1日のスケジュールを理解してくれているのは大きいです。

去年の3月末に支援をスタートして、2か月後には歯磨きとかがいも、かなりできるようになってきました。最初は歯磨きも3秒くらいしかさせてもらえませんが、職員が毎日工夫しながらやっていくとだいたい時間も伸びましたね。日々

の声掛けやこちらが手本を見せることで、うがいも少しはできるようになりました。それまでは全部うがい水を飲んでしまっていたので、それにトイレ後の手洗いや、洗濯物を畳めるようにもなりましたね。

7月後半には初めての散歩に行きました。今は、週2〜3回ほど、30分くらいの散歩に出かけています。スケジュールにドライブや外出が入っていると1日ご機嫌ですが、行動性が強く、気になるものが見えたり走ったり、車などの危険回避ができないので、2人体制の見守りでも緊張感があります。ドライブではお母様の用意してくれた車を使って、運転手も加えた3人体制を取っています。

の種類の増やしていきました。小さい道具だと異食の恐れがあるので、施設では大きくなって硬いものしか使用できなかったとのことですが、在宅介護だと常に見守りができるので、絵合わせのカードやパズルも取り入れました。今では1日8回、毎回異なるワークができています。ワークには仕事や生活のリズムを作る意味合いがありますが、今後は時間の概念などの学びにもつなげていきたいですね。

気をつけていること

まずは異食と器物破壊です。前田さんは以前、靴のクロックスの破片を異食して、小腸の開腹手術を受けたこともあるそうなので、住環境はかなりの工夫されています。例えば、



壁紙を貼ると、そこをカリカリして食べちゃうので特殊なものを使ったり、床も畳からフローリングに変えました。また、蛍光灯やエアコン、テレビなど、本人が気になる感触で壊してしまっているので、すべて埋め込み式にしています。住宅改修は琴浦町とのぞみの園で行いました。



まずはやってみる

前田さんが困ることを減らしていきたいです。そうすると、そういう行動も減っていくと思います。まずはやってみる

飛び出しがひどいので、窓も開かないようにしています。居室は施錠しています。支援当初は鍵の閉め忘れで、キッチンに侵入されたりと、危険なこともあったので、前田さんの命を守ることを最優先に考えています。あとは、手足指の爪やささくれをはぐなどの自傷行為があるの

で、そこは注意していますね。ただ、異食や破壊行為も、本人が困っているからそうしているんです。だから環境面や支援の

前田さんは人に手が出ることはないですし、アテンドを選ばれません。誰でもwelcome

なところが好きです。腕（女性です笑）には、腕をすりすりしたりします。ただ、在宅に移るまで女性の支援員と関わったことがなく、我々も初めは性的なところも踏まえて、やってみたいとわからない状況でした。当初は心配もありましたが、現状、問題はありませ

今後の目標

今後は性的なところも踏まえて、やってみたいとわからない状況でした。当初は心配もありましたが、現状、問題はありませ



When pigs fly

先日、できるだけ家事を減らそうと、「お掃除ロボット」をレンタルで導入してみました。全室絨毯敷で長毛種の猫もいるので掃除機は必須アイテムです。使用説明書で指示通り、「ルー」と名付けました。「これで毎日の掃除機掛けから解放される」とワクワクしましたが、「ルー」は、2畳分程をぐるっと回って掃除するとステーションに戻って「終わったよ」の音を出して知らん振りを決め込むんです。飛ばない豚はただの豚だ！と某アニメのセリフにありますね。英語「When pigs fly」というフレーズがありますが、これは「あり得ない」「不可能なこと」という意味で使われています。掃除しかできないロボットが掃除しないのはあり得ません。でも「ルー」は機械ですから、いくら「全室掃除しようよ」と話しかけても無駄です。ただの物だと考えれば「マッチングが悪かった」と返却や交換も出来ません。でも、名付けてしまった為か愛着さえ感じ、躊躇してしまい、「ルー」が何とかやる気を出してくれるように試行錯誤しています。さて、これが介護の場合だとなかなか難しい問題です。アテンドとうまくいかない。希望と違う。変えて欲しいけれど人が居ない。いないと困るから我慢しかない。なんて事になると辛いものです。でもアテンドは人間です。機械と違って話し合いもでき、これは苦手だけどこっちは得意という事もあります。また、ある人は「元気があって良い」、でもこちらの人は「元気があり過ぎて嫌だ」といった様にマッチングの難しさもあります。そういった時、話し合うことで折り合ってお互いの関係作りができるのでしょうか。対等な人間同士だからこそ。

こもとゆみこ（夫が脳性麻痺1種1級）

広報・土づくりへの

ご意見・ご感想

株式会社土屋の各種取組みについてのご意見や、当社介護サービスにおいて虐待や不当な身体拘束が疑われる場合がありますらご一報ください。ご意見・お問い合わせ窓口 client@care-tsuchiya.com



本社：岡山県井原市井原町192番地2久安セントラルビル2階